

基準 9 . 教育研究環境

9 - 1 . 教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

（ 1 ） 事実の説明（現状）

9 - 1 - 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。

校地・校舎の面積

- 校地、校舎の面積は表 9 - 1 - 1 のとおりであり、大学設置基準を上回っている。

表 9 - 1 - 1 校地・校舎等の面積

区分	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する他の学校等の専用 (㎡)	計 (㎡)	設置基準上必要な面積 (㎡)	在籍学生ひとり当たりの面積 (㎡)	備考 (共用の状況等)	
校地等	校舎敷地	13,987	0	0	8000	51.6	「大岩グラウンド」学校法人岡崎学園 人間環境大学岡崎学園高等学校819名、中学校78名	
	運動場用地	3,083	6,908	2,042				
	小計	17,070	6,908	2,042				26,020
	その他	17,042	0	0				17,042
	合計	34,112	6,908	2,042				43,062
校舎	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する他の学校等の専用 (㎡)	計 (㎡)	設置基準上必要な面積 (㎡)	4958	備考 (共用の状況等)	
	6,051.3	583.9	2859.4	9494.6				岡崎学園教育センターの専用及び大学との共用部分については、今年度中に大学専用として校舎変更届予定

施設の概要（図書館、体育施設を除く）

- 講義室、演習室、学生自習室等の概要は表 9 - 1 - 2 のとおりであり、教育活動等に必要の種類と数を備えている。備考にも記したように、この他に岡崎学園教育センター内に、講義室 8 部屋 570.0 ㎡、演習室 3 部屋 206 ㎡、その他 5 部屋 319.4 ㎡ が配置されている。
- 学部・研究科の学生用実験・実習室の面積・規模は表 9 - 1 - 3 のとおりである。この中には、表 9 - 1 - 2 に含まれているものも再掲されている。情報処理ならびに語学の学習のための施設も備え、大学設置基準に適合している。なお、情報処理の学習を含む情報サービスの施設の概要については別項に記載する。
- その他の附属施設として、表 9 - 1 - 4 に掲げる次のものを設置している。
 - 伝統文化教育のため茶室棟を設け、2階に茶室「白露庵」を、1階に伝統工芸実習室（工房）を整備している。
 - 歴史文化環境専攻における建築士資格取得課程に必要な設備として、建築実験棟を設けている。
 - 森林環境学、環境保全論などの教育のため、キャンパスに付属して演習林を整備している。
 - 景観文化論の教育のため、農場を設置している。

表9 - 1 - 2 講義室、演習室、学生自習室等の概要

学部・研究科等	講義室・演習室 学生自習室等	室数	面積の合計 (㎡)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	学生総数 (人)	在籍学生1人 当たり面積 (㎡)	備考 (研究科・短大等との 共用等の状況)
人間環境学部	講義室	11	1226.3	共用	1,046	721	1.70	左記の他、岡崎学園教育センター内に、講義室8部屋 570.0㎡、演習室3部屋 206㎡、その他5部屋 319.4㎡ が配置されている。
	演習室	16	796.8	共用	418	721	1.11	
	学生自習室							
	その他	34	781.1	共用	0	721	1.08	
人間環境学研究科	講義室			専用		22		
		11	1226.3	共用	1,046	721		
	演習室			専用		157	22	
		8	624.8	専用	157	22		
	演習室			共用	418	721		
		16	796.8	共用	418	721		
	学生自習室			専用	20	22		
		2	83.5	専用	20	22		
その他				共用		721		
		2	50.4	専用	0	22		
		34	781.1	共用	0	721		
		2	50.4	専用	0	22		
全学共通	体育館	1	490					
	講堂							
	人間環境学研究所	1	14.7					

表9 - 1 - 3 学部・研究科の学生用実験・実習室の面積・規模

用途別室名	室数	総面積 (㎡)	収容人員 (総数)	収容人員1人当たりの 面積 (㎡)	使用学部等	備考
PC教室	2	209	89	2.3	人間環境学部	研究科と共用
LL教室	1	72	54	1.3	人間環境学部	研究科と共用
実験実習室	4	318.3	60	5.3	人間環境学部	研究科と共用、準備室含む
実習室	2	52	-	-	人間環境学部	研究科と共用
計	9	651	203	3.2		

表9 - 1 - 4 その他の施設

名称	面積の合計 (㎡)	収容人員 (総数)	開館時間等 該当する場合 のみ記載	利用者数 (平成19年度)	
				学内	学外
茶室棟	105.2		9:00~20:00	4,077	
建築実験棟	24			65	
演習林	17,042				
実習農場	1,000			406	

体育施設

- ・キャンパス内には2号館最上階に小規模な体育館が設置されているほか、弓道場、クラブハウスを備えている。キャンパス外(大岩)に運動場がある。
- ・体育施設の状況は表9 - 1 - 5に示すとおりである。

表9 - 1 - 5 運動施設を中心とした施設

名称	面積の合計 (㎡)	収容人員 (総数)	開館時間等 該当する場合 のみ記載	利用者数 (平成19年度)	
				学内	学外
体育館	490		9:00~20:00	3,205	16
クラブハウス	99.3				
弓道場	92.4		9:00~20:00	1,406	60

図書館

- ・本学設置の附属図書館は、教養教育と専門教育を両立させる本学の方針に沿って、小規

模ながら幅広くバランスのとれた蔵書構成を目指している。現在、蔵書数7万冊余りのほか、1,000点弱の視聴覚資料を備え、オンライン蔵書目録(OPAC)用のパソコン、視聴覚機器、コピー機などを整備している。このほか学生の学習に必要な基本的なサービス、システムを整えている。

- ・図書館の概要、ならびに図書、資料の所蔵数はそれぞれ表9-1-6、表9-1-7に示すとおりである。

表9-1-6 図書館の概要(平成19年度)

図書館の名称	面積(m ²)			学生 閲覧室 の座席数	学生 収容定員	収容定員に 対する 座席数の 割合(%)	開室日数		年間利用実績		開室時間 (平成20年度)
	全体	閲覧 スペース (内数)	書庫 スペース (内数)				週当たり	年間	学内	学外	
人間環境大学附属図書館	792	276	362	128	816	15.7	6	253	42,837	5	9:00~18:30
—											
合計	792	276	362	128	816	15.7	6	253	42,837	5	

表9-1-7 図書、資料の所蔵数

図書館の名称	図書の冊数(冊)		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数(点数)	電子ジャーナルの 種類(種類)	データベース の契約数	備 考
	図書の冊数	開架図書の冊数 (内数)	内国書	外国書				
人間環境大学 附属図書館	71,725	68,776	595種類	113種類	982種類	90種類	2種類	
—								
計	71,725	68,776	595種類	113種類	982種類	90種類	2種類	

情報サービス施設

- ・学内には PC 教室 2 室を備え、情報実習ならびに学生の学習に供している。PC 設置台数は教員用を除くと 86 台であり、PC 教室の利用状況は表 9 - 1 - 8 に示すとおりである。
- ・教育センター B 館内にサーバ室を設け、ルータ、ファイアウォールアプライアンス、DNS サーバ、Web サーバ、DHCP サーバ、メールサーバ、NTP サーバ、ファイルサーバ、SSL-VPN サーバ、ダイアルアップサーバを設置して、前述の PC 教室を含む全学のネットワーク管理を行っている。インターネットへの接続は、本学と SINET 名古屋大学ノード間を広域イーサネットで結ぶことにより行っている。
- ・平成 18(2006)年度以降、学内でのネットワークアクセス可能範囲をさらに拡充し、機器の入れ替えやケーブルの引き直しにより通信速度の向上を図った。
- ・学内 LAN 全体において認証ハブを介したユーザ認証システムを整備し、内部からの不正アクセスを防止あるいは抑制するセキュリティ体制を整えている。
- ・外部接続回線についても、通信速度を 1.5Mbps から 10Mbps (ベストエフォート) に増強している。
- ・教員・学生がネットワークに容易に接続できるよう、各教室・演習室・実習室・研究室に情報コンセントを設置しているほか、食堂・談話室、図書館には無線 LAN アクセスポイントを設置している。

表 9 - 1 - 8 情報サービス施設（PC教室）の状況

情報センター等の名称	座席数	コンピュータ台数	ソフトウェアの種類の数	年間総利用時間数（平成19年度）		開館時間等	開館日数	
				授業利用時間数	授業外利用時間数		年間	週当たり
526PC教室	50	50	8	560	1,956	9:00～20:00	277	5.3
242PC教室	36	36	1	168	1,921	9:00～17:00	277	5.3

9 - 1 - 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持、運営されているか。

- ・施設設備は「固定資産管理規程」に基づき管理している。総括管理は理事長が行い、現場における管理責任者は学長がこれにあたる。実際の管理業務は本学事務局長の下、庶務課が所管している。また管理単位の組織毎に使用責任者を置いている。施設設備の実践的な維持・管理および改善・改修等については教員や各部局と連携して行っている。
- ・図書館については「人間環境大学附属図書館規程」に基づき、図書館長が管理運営を統括している。また図書館の管理運営に関する重要事項を審議するため「図書館運営委員会」を置いている。
- ・情報サービス施設については情報関連委員会を設置して管理運営にあたっている。PC教室については「PC教室利用規程・同利用心得」を定めている。
- ・その他の施設については、「クラブハウス運営規程・同使用内規」「弓道場運営規程」などを個別に定めて管理運営にあたっている。

(2) 9 - 1の自己評価

- ・校地、校舎は大学設置基準を満たし、実態に照らしても本学の教育課程の運営に十分なものと判断している。
- ・教室、実習室、実験棟などの教育研究施設は必要な整備がなされ、教育課程において有効に活用されている。
- ・図書館は、本学の理念に沿ったバランスのとれた蔵書構成をおおむね実現しており、貸出・閲覧の利用は平日で250～300人と高い利用率が認められる。ただし、限られた床面積のなかで書架容量は限界に近づいており、今後の蔵書拡充への対応は困難である。平成16(2004)年度には図書館新築計画が立案された経緯があるが、資金不足のため実現に至っていない。平成19(2007)年度には、一階と二階に分散していた閲覧席を一階にまとめ、二階を開架式書庫として配置を整え、ある程度のスペースの確保を行った他、雑誌類については電子ジャーナルへの移行を適宜進めて省スペース化をはかっているが、今後の蔵書拡充への対応が困難な状況が根本的に改善されたわけではない。
- ・図書は貸出・閲覧に限らず、全学生がAV設備やデータベース、インターネットなどを十分に利用できる設備環境の充実など、多様なニーズへの対応も必要とされる。一方、ブックディテクション・システムが未整備であり、蔵書管理上の問題を抱えている。
- ・情報サービス施設については本学の教育課程の運営に必要な設備水準に達していると判断される。平成18(2006)年度以降の整備により、セキュリティが強化された他、通信速度が改善され、以前に見られた帯域の飽和はほぼ解消され、外部ネットワークへのスム

ーズな接続が維持できている。しかし、ネットワーク環境および情報機器類の維持管理にあたる専属職員を欠き、情報関連委員の教員に過大な負担が生じている。

- ・平成4(1992)年度竣工の主要施設は開館後十数年を経ている。総務・財務委員会と庶務課による日常のメンテナンスは適切に行われているが、施設設備の不具合についての定期的なチェックと補修等の整備が必要である。

(3) 9 - 1 の改善・向上方策(将来計画)

- ・今後も学生の要望・意見を収集しつつ、さらなる教育研究環境の改善・整備に総務・財務委員会を中心に取り組んでいく。
- ・図書館新築計画は、現状では直ちに実施に移す状況にないが、中長期の計画を作成し、寄付金募集その他をも検討して引き続き実現を目指して取り組む。ブックディテクション・システムについても、磁気方式・ICタグ方式の長短を検討し、建築計画とあわせて解決を期す。
- ・情報サービス施設の維持管理については、PCのソフトウェア更新、セキュリティ確保など継続的な対応が必要である。また、情報関連委員(教員)への過大な負担集中を軽減し、施設の維持管理に万全を期すためにも、専属の技術職員の確保について検討する。
- ・施設設備の老朽化に関して定期的なチェックと補修に関する計画を将来計画委員会などにおいて立案する。

9 - 2 . 施設設備の安全性が確保され、かつ、快適なアメニティとしての教育研究環境が整備されていること。

(1) 事実の説明(現状)

9 - 2 - 施設設備の安全性が確保されているか。

- ・「人間環境大学 安全衛生管理規程」を定めて施設設備に関する安全と衛生の保持に努めている。安全衛生管理の統括は学長がこれにあたっている。体育館、附属図書館、各実習室・実験室、茶室、木工室、弓道場、演習林、実習農場などにつき個別に安全衛生管理者を置き、利用者の指導にあたるとともに、当該施設設備に関する安全と衛生の保持に当たらせている。
- ・「人間環境大学 危機管理規程」中に施設管理上の重大な事象に関する危機管理のことに定めて、学生・教職員および近隣住民等が大学に起因する危機事象により災害等を被ることのないよう常に配慮するとともに、学長と危機管理員(学生部長・大学事務局長・大学庶務課長)を中心とする危機管理の体制を構築し、また必要な情報提供等に努めることとしている。

9 - 2 - 教育研究目的を達成するための、快適な教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

特徴的な施設環境

- ・多様な専攻にわたる教員・学生の交流の場として、キャンパスの中心部に食堂・談話室・中庭等の快適な環境が整備されており、十分に活用されている。
- ・茶室・木工室や演習林等は本学の特徴的な教育を支える環境として整備され、積極的に

活用されている。

バリアフリー

- ・平成12(2000)年に建設された3号館、教育センターA、B館に関しては適切な配慮の下で建設されているが、平成4(1992)年竣工の1、2号館は傾斜地に立地していることなどから施設間の接続やレベル処理に難点を抱えていた。このため、主として車椅子による学内移動の確保を考慮して、平成17(2005)年度にスロープ、エレベータ、リフト、手摺の設置、建具の改良などのバリアフリー対策工事を実施した。

アスベスト

- ・施設におけるアスベスト飛散の危険性は一切ない。

(2) 9 - 2の自己評価

- ・安全・衛生の保持については適切な規程と体制を整備したところであり、実践的な取り組みは今後の課題である。
- ・バリアフリーは平成17(2005)年度の対策工事によって大幅に改善されているが、最寄り駅からのスクールバスの乗降、正門からの斜路の上下など、キャンパスへのアクセスを含む包括的なバリアフリーは実現できていない。

(3) 9 - 2の改善・向上方策(将来計画)

- ・安全・衛生面では、安全訓練・情報提供などの組織的な対応と評価・改善を計画的に行い、実績を積み重ねていく。
- ・災害時の避難等の具体的な対応については、「震災及び火災発生時における、教職員緊急行動マニュアル」を作成し、順次改訂を進めている。
- ・バリアフリーの課題は、キャンパスの立地特性に限界づけられており、物的環境面での対応だけでなく、人的なサポート体制を含めて検討し、円滑な利用の可能なきめ細やかな対応を検討する。

[基準9の自己評価]

- ・校地・校舎は大学設置基準を満たしており、また本学の理念に沿った教育研究活動を推進するのに必要な施設設備が適切に整備され活用されている。
- ・図書館は本学の理念に沿ったバランスのとれた蔵書構成をおおむね実現しているが、床面積・書架数の限界のため蔵書の拡充は困難な状況にあるほか、蔵書管理に不十分な点がある。
- ・情報サービス施設は必要な設備を有し、適切に機能しているが、ネットワーク環境および情報機器類の維持管理については専属職員を欠いている。
- ・安全と衛生に関して必要な規程が整備されている。
- ・学生の快適な活動環境が整備されており、バリアフリー環境も物理的な整備はほぼ実現しているが、人的なサポート体制の構築が必要である。

[基準9の改善・向上方策(将来計画)]

- ・今後も学生の要望・意見を収集しつつ、さらなる教育研究環境の改善・整備に継続して

取り組む。

- ・図書館新築計画は直ちに実施に移す財政状況にないが、寄付金募集その他を検討し、引き続き将来的な実現を目指して取り組み、ブックディテクション・システムの問題も同時に解決を期する。
- ・情報サービス施設の維持管理については、専属の技術職員の確保について検討する。
- ・安全と衛生については規程の整備に留まらず、組織的な取り組みによりさらなる安全・衛生の保持に努めていく。
- ・バリアフリーについては人的なサポート体制の構築を含め、円滑な運用に必要とされる体制構築を検討する。